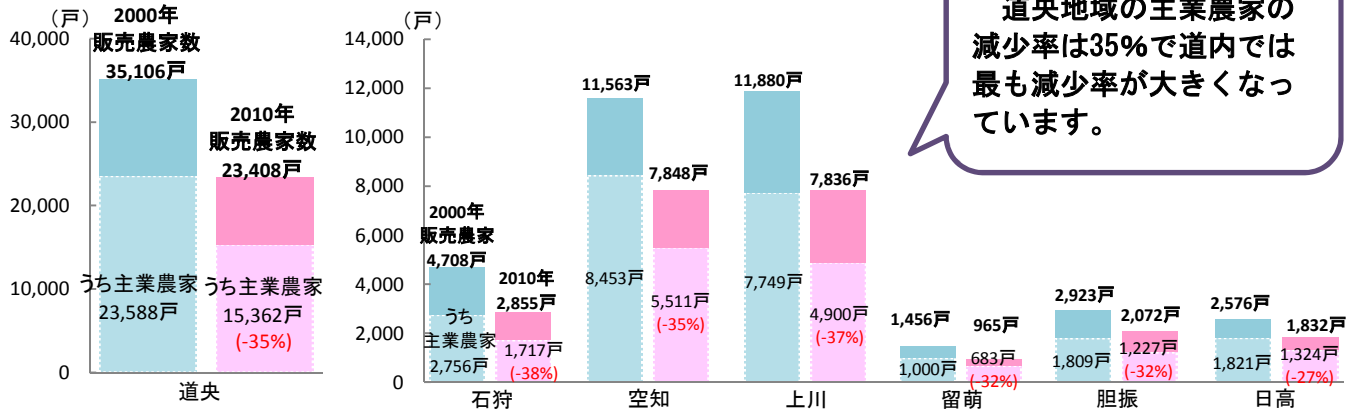


## 1 農家数の動き

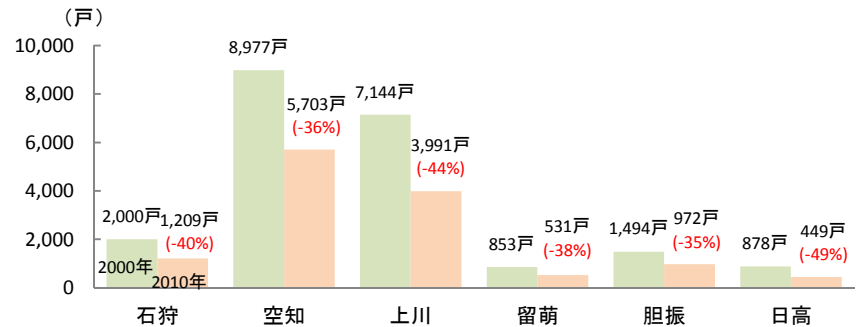
■販売農家数と主業農家数の推移



道央地域の主業農家の減少率は35%で道内では最も減少率が大きくなっています。

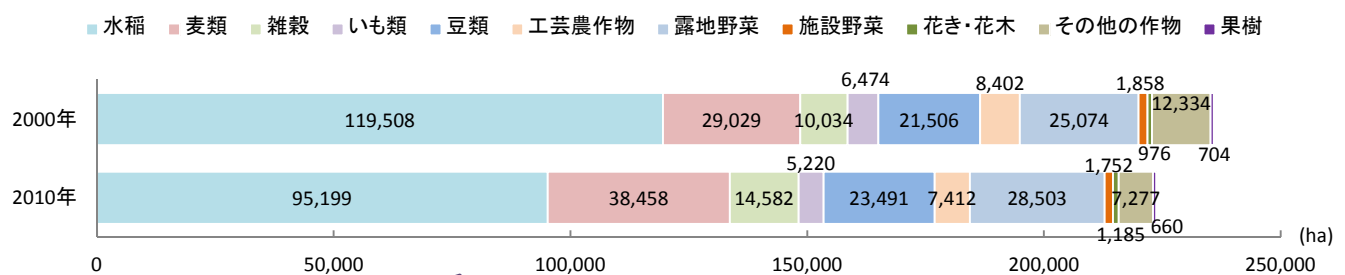
水稲を作付けした販売農家は、いずれの振興局も35%以上減少しており、特に日高、上川及び石狩で40%以上減少しています。

■水稲を作付けした販売農家数の推移



## 2 作物の作付面積の動き

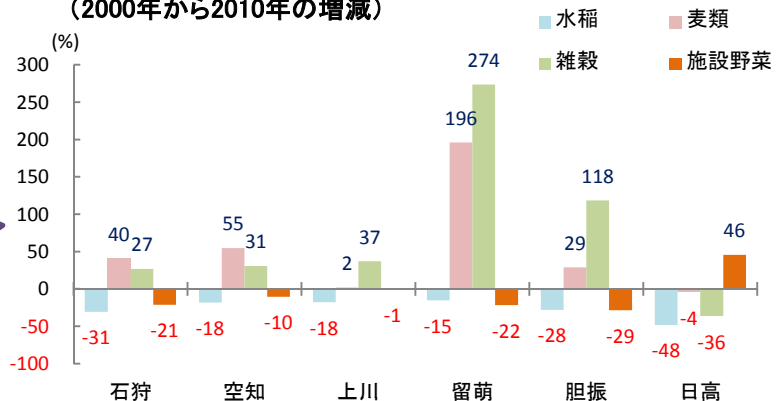
■販売目的の作物別作付面積の推移(販売農家)



面積割合が最も高い水稲が減少し、麦類、雑穀、露地野菜等が増加しています。

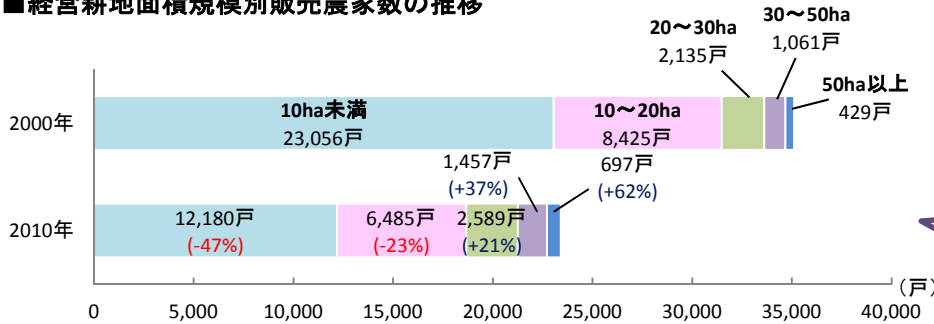
水稲は、いずれの振興局でも減少しています。一方、麦類は主に留萌、空知、石狩で、雑穀は留萌、胆振等で、施設野菜は日高でそれぞれ増加しています。

■変動が大きい作物の作付面積増減率(2000年から2010年の増減)



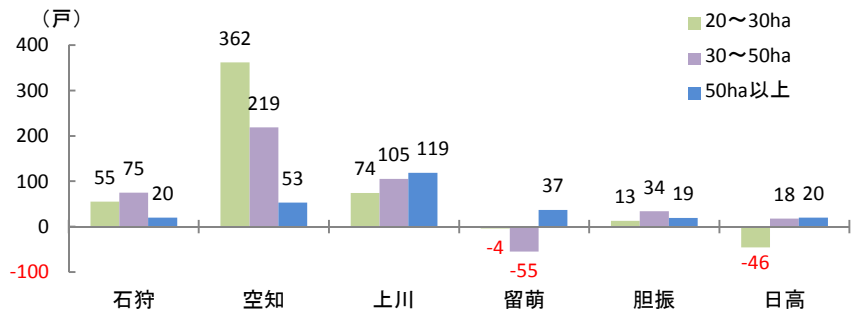
3 経営規模の動き

■経営耕地面積規模別販売農家数の推移



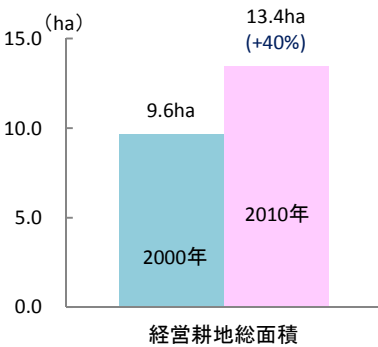
経営耕地面積規模別販売農家数は、20ha未満で減少したものの、20ha以上では増加しています。

■経営耕地面積規模20ha以上の販売農家増減数 (2000年から2010年の増減)



20ha以上の販売農家数は、空知振興局で最も増加しています。

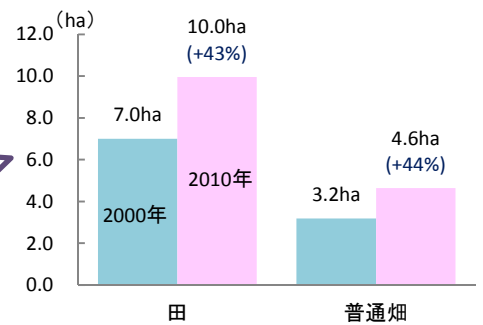
■販売農家1戸当たりの経営耕地総面積



販売農家1戸当たり面積は13.4haで40%増加しています。

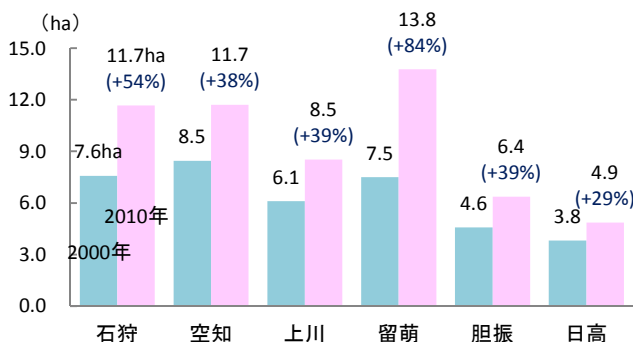
田、普通畑のある販売農家ともそれぞれ40%以上の増加率となっています。

■田のある販売農家1戸当たりの田面積及び普通畑のある販売農家1戸当たりの普通畑面積



田のある販売農家1戸当たり田面積を振興局別にみると、留萌、石狩、空知は10ha以上となっていますが、水稻を作付した販売農家1戸当たり稲作付面積は、留萌、空知が9ha以上となっています。

■田のある販売農家1戸当たりの田面積



■水稻を作付けした販売農家1戸当たりの稲作付面積

